

舊明
下

明

中村俊定文庫
文庫 18
900



一覽集



善く祖翁と度檀母と所を
 入て正法之縁をて母道あり
 子法風となれしこのれなりも
 うなる哉と法之をたふす
 未なり季吟をもちたる母心
 所着の中より俳之縁を引出で
 協の系より細きと引絶する
 事なくは法正法を不始し
 女を具し法よまのそしつた

何程後後直傳の言を
ら於の言く百象九流
分たもえり中よ音子の象
通たもれり天下の俳諧
控りしとあわきし酒後の風を
おこせしも其よる詠字結
休は流き入るや人も
おもは甘き後や文を
至る中流の風

布多の流き入るや人も
おもは甘き後や文を
至る中流の風
控りしとあわきし酒後の風を
おこせしも其よる詠字結
休は流き入るや人も
おもは甘き後や文を
至る中流の風


乙二冊の世帯指をききし又傑
出の漸く袖正風は後古と
より連綿とて今日まで
巻入り有りこゝろに信流の先
々皇方不羈の志を励みし
東々おあかぶく夷賊のまじり
西々おあかぬ花の筑はつるも
あつて節をりてこゝろのなほ此の
次第を考へて祖の勲を母のり

法集のあつたあきしとて中無
正風後古の人の安永歌仙
者立歌仙をききしあはる
夷のまじり人まじりまじり
けし初めお案を造す人
魁隊やこの袖よりとせり
遠國の人のあつた集の袖
忽ちしるしあつた其のまじり
そとつたまじりお今此集

そむる元祿復古の年際
見ふ下へる調紙の
あはれくく日よあはれ
もつふまらく又ノ左
の功もく安水復古の
まもあはれおほく

とまを元祿鐘

張大


三郎


凡例

- 一 幕中まの袖と幕舞付又舞付
- 一 連句の写本人の書向を
- 一 雅名に
- 一 諸
- 一 一方
- 一 撰
- 一 扇

信濃ノ左纂著

安永二年九月

其村

ま〜美足信濃藤やた〜ん此〜
 風〜
 舟〜
 新〜
 堂〜
 半〜
 け〜
 家〜
 汝〜
 出〜
 小〜
 至〜
 八〜
 夫〜
 太〜

携良
 儿菫
 崧山
 正
 山
 村
 菫
 山
 菫
 山
 菫
 山
 菫
 山
 菫

大瓶の酒を以て〜
 土又の海〜
 海の多田の橋〜
 何の〜
 松と枝〜
 念仏〜
 新山〜
 函〜
 鏡〜
 町〜
 星〜
 祈〜
 日〜
 鳥〜
 小〜
 相〜
 竹〜
 何〜
 象〜
 鶴〜

菫
 山
 村
 菫
 山
 村
 菫
 山
 村
 菫
 山
 村
 菫
 山
 村
 菫

山

白雲の影を海にうつす影
流るる水もわが心影
借馬は杖を倚りて
池邊あふと婦人の声
かろいさきさき
手すりの香煙
うらやまの香煙
中はり天のもも
ちろくも神あり
我の乱字もか
昔は似たり
昔は杖を倚りて
思はれぬ
あはれり
花の影
雨は

山 井 村 山 井 村 山 井 村 山 井 村 山 井 村 山 井 村 山 井 村

春の池邊の影
泉へあふる
人々の影
小憩
精進のや
りあや
秋の
星の
や
あ
池
作
作
作
作
作
人
作

井 山 井 村 山 井 村 山 井 村 山 井 村 山 井 村 山 井 村 山 井 村 山 井 村

世に在るも身を乞ふるは

重厚

好まざりければ

成美

之謂別れを

尊古

肩入り

厚

骨を

美

強きの

古

引込

厚

かさね

美

松長

古

今

厚

ふ

美

登

古

松

厚

丸

美

作

上

張

厚

梅

美

可

古

空

美

外

厚

小

古

作

美

眼

厚

於

古

兼

美

不

厚

竹

古

終

美

何

厚

の

古

向

美

の

古

の

美

の

古

いづれか

おのれはふたりの情を解して
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ

文 文 文 文 文 文 文 文 文 文 文 文 文

おのれはふたりの情を解して
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ
あつてはさういふはさういふ

文 文 文 文 文 文 文 文 文 文 文 文 文

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

あつたはらうのうらみ

晴

重八

三

雨ぞとてや降りて又もどろどろの川

月がさびたの林にそたけけ

柳ぞとて柳の枝も静かに

雨の音のよきよき

了てよきよき

さけさけのいさめ

おれらの魂のよきよき

去かこころゆくと

さきさき

かきかき

さかかき

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

おれらの

士

念

斗

在

吉

即

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入

入



とらふ園の鼻を〜しりふあつ山

五りの風〜十日の雨

粒は〜月を〜まはる〜

ちんちん〜水と〜澄〜る〜

終り〜〜人〜お〜成〜ぬ〜ん

人よ〜か〜れる〜好〜か〜る〜ん

十粒の風〜言〜さ〜る〜粒〜を〜

のゆ〜く〜肩〜よ〜し〜る〜梅〜香

小粒は〜む〜じ〜る〜は〜小〜門〜の〜ん

と〜り〜も〜か〜の〜も〜池〜の〜は〜ら〜

有〜る〜は〜さ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

月〜を〜〜み〜を〜〜し〜る〜方

昔〜は〜〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

何〜日〜田〜の〜幣〜を〜〜ら〜ら〜

八〜十〜は〜な〜ら〜ら〜ら〜ら〜

ま〜え〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

初〜花〜の〜深〜山〜を〜〜ら〜ら〜

如〜き〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜田〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

二〜三〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

初〜花〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

歳〜子〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

五〜六〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

漫〜漫〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

山〜崎〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

る〜後〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜む〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

昔〜の〜ら〜ら〜ら〜ら〜

岳

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見

初見



海外のりて

乙二

此處より昔蒲葺きも六つあり

布序

藤のあつたわたりを考案の

二

とてゆゑに夜もさかたけに

二

文ねた〜とてあつたわりの

二

ねとつた〜とてあつたわりの

二

木槿のたのしみもさうもせし

二

小作〜とてあつたわりの

二

まのまの影の〜とて 四 序

二

風は〜とての傍へ眼をさす〜とて

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二



ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二

ねとつた〜とて〜とてのち

二



亭和元集

成英亭

士郎

てあはれいづれのるんらんさうりやくにん
字にわか〜 までける芽 花

成英

柳ふ舞の約束多〜 舟を
磯のゆ〜 舟に〜 舟を〜

成英

てあはれ〜 舟の中舟を〜
未織〜 舟を〜 舟を〜

成英

てあはれ〜 舟の中舟を〜
字組〜 舟を〜 舟を〜

成英

勝〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
一舟〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英



舟の奥〜 舟を〜 舟を〜
舟を〜 舟を〜 舟を〜

成英

そと

雨もあつて風もあつて花の香
 眼もあつて心もあつて夜もあつて
 こころもあつて花もあつて田舎もあつて
 春もあつて夏もあつて秋もあつて冬もあつて
 子もあつて親もあつて妻もあつて夫もあつて
 花もあつて葉もあつて根もあつて土もあつて
 空もあつて地もあつて水もあつて火もあつて
 山もあつて川もあつて海もあつて空もあつて
 朝もあつて夕もあつて夜もあつて日もあつて
 月もあつて星もあつて雲もあつて霧もあつて
 雪もあつて氷もあつて霜もあつて露もあつて
 雨もあつて雪もあつて風もあつて雷もあつて
 虹もあつて霞もあつて霧もあつて雲もあつて
 朝もあつて夕もあつて夜もあつて日もあつて
 月もあつて星もあつて雲もあつて霧もあつて
 雪もあつて氷もあつて霜もあつて露もあつて
 雨もあつて雪もあつて風もあつて雷もあつて
 虹もあつて霞もあつて霧もあつて雲もあつて

春 夏 秋 冬 春 夏 秋 冬 春 夏 秋 冬 春 夏 秋 冬 春 夏 秋 冬 春 夏 秋 冬

秋の風生物やまむ山守り

岳朝

まのくさくさる月の出所

士朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

身もくさくさるやむ山守り

成朝

夜もくさくさるやむ山守り

成朝

鷹の餌はたふさるやむ山守り

成朝

片足の時もくさくさるやむ山守り

成朝

さけくさくさるやむ山守り

成朝

人くさくさるやむ山守り

成朝

毎の日記をくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

茶器の付くさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

一はくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

大空もくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

おれくさくさるやむ山守り

成朝

初日とてなれば春のこころ

若ゆふと一門はり 末

く〜はゆふのけしきを〜村の春

てはゆふの春を〜れを〜

これゆふの春を〜れを〜

ゆふ〜ゆふの春の末 末

春の夜とてゆふの春の夜

春〜ゆふ〜ゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

春の夜とてゆふの春の夜

一書

乃布

布

布

布

乃布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

布

白旗坊退老

花とかな火標... 威さぬ... 寄居... 雨の... 芳... 市... 八... 手... 政... 花... 九... 杜... 愚...

若一頓下略

不二... 若... 寄... 雨... 芳... 市... 八... 手... 政... 花... 九... 杜... 愚...

花... 威... 寄... 雨... 芳... 市... 八... 手... 政... 花... 九... 杜... 愚...



静子中風をさへんす秋のしん

静の初まわりの秋のしん

紅梅のうらみの秋のしん

古草をまねて登白ふん

旅立ちの難のせうれつるも秋

古詩のしん七のしん

ものゝしん星のしん

おまけのしんしん

降るるまの秋のしん

未だしん万日のしん

秋のしんを種しん

牛の尻尾をしん

後まのしん

虎を神しん

蓮葉を林のしん

花よ大るのしん

白く鳥のしん

日なりのしん

静のしん

ゆらゆらしん

ははのしん

後のしん

相のしん

静のしん

思のしん

園のしん

末のしん

秋のしん

りひのしん

秋のしん

静のしん

宿のしん

入りのしん

静のしん

西のしん

静のしん

乙二

七景

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

二

十六夜もささ文解り歌うり

は白吹くくく霧の川流

去一斗星の空や露さるん

降るくくくくくくくくく

去さるくくくくくくくく

大津のけりも去ちるくく

河岸も海流くくくくく

風情も果しききききき

若くはさきさきさきさき

胃ちくくくくくくくく

迷作のくくくくくくく

未横くくくくくくく

原くくくくくくくく

折くくくくくくくく

片くくくくくくくく

水の降を撃てくくく

若くはくくくくくく

降るくくくくくく

くくくくくくくく

永流を歌入くくく

何くくくくくくく

時のゆくゆくゆく

酔のくくくくくく

折のくくくくくく

下佛の尻くくく

おれり打る肩くくく

何くくくくくく

あけの朝くくく

ゆくくくくくく

梅ヶ路の風くくく

煙くくくくくく

あゆくくくくく

静く出遠入井の枝く

花のくくくく

ゆくくくく

若

完東

下府

松尾

重々

大正九

不二

月如

宛岳

殿英

春熾

葛三

下敷

出心

白破

化登

年心

師九

孝松

士郎

号笠

護相

對山

並雨

東指

七高

浪人

三休人

奇間

聖橋

松重

風也

朝飯

大橋

養礼

名人

新しき春は思ふに白く
庭に花をさすは春の鳥
清くは田原の刀の宮持く
とけくは木れをゆきつ物 柳
拾葉の洞原も春の宵の月
はくはくは物も春のしらべ
秋もは寒霜はくは柳も
春もはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはく
清くは物も物もくはくはく
長布集はくはくはくはくはく
大井はくはくはくはくはくはく
月代はくはくはくはくはくはく
まはくはくはくはくはくはく
春もはくはくはくはくはくはく
輪はくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく

春此
柳案
佐瓜
風也
春峰
未産
法隆
九花
乙粒
不四
魚舟
く女
公臥
墨庫
本方
友南
旅

湯中も思ふに白く
庭に花をさすは春の鳥
清くは田原の刀の宮持く
とけくは木れをゆきつ物 柳
拾葉の洞原も春の宵の月
はくはくは物も春のしらべ
秋もは寒霜はくは柳も
春もはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはく
清くは物も物もくはくはく
長布集はくはくはくはくはく
大井はくはくはくはくはくはく
月代はくはくはくはくはくはく
まはくはくはくはくはくはく
春もはくはくはくはくはくはく
輪はくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはく

春此
柳案
佐瓜
風也
春峰
未産
法隆
九花
乙粒
不四
魚舟
く女
公臥
墨庫
本方
友南
旅

折つゝも花をたぐはく花の香

木風をまきつゝはくはくはくは

まほさ実の野をへはくはくは

さつと昔つゝはくはくは

金針たつゝはくはくは

さつと昔つゝはくはくは

代木もむらもつゝはくはくは

さつと昔つゝはくはくは

てつと昔つゝはくはくは

中のゆつゝはくはくは

残切もつゝはくはくは

作の浦つゝはくはくは

さつと昔つゝはくはくは

持もつゝはくはくは

うつと昔つゝはくはくは

下流もつゝはくはくは

まほさ実の野をへはくはくは

備へつゝはくはくは

萱帆

襟巻

風也

土の

凡乙

乙長

子長

古長

白紙

台英

羊皮

貞長

女長

袖付

蘇山

春峰

杜若

師丸

門ねり又あつゝはくはくは

さつと昔つゝはくはくは

うつと昔つゝはくはくは

さつと昔つゝはくはくは

月と昔つゝはくはくは

さつと昔つゝはくはくは

はくはくは

さつと昔つゝはくはくは

雨風の裏代衣片はくはくは

さつと昔つゝはくはくは

雪つと昔つゝはくはくは

金利つと昔つゝはくはくは

さつと昔つゝはくはくは

初春つと昔つゝはくはくは

海苔つと昔つゝはくはくは

さつと昔つゝはくはくは

あつと昔つゝはくはくは

さつと昔つゝはくはくは

常つと昔つゝはくはくは

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

人丸

年々よき年と云われしおの存
 其の物りの物るはくは子
 子孫は島の島と云ふはくは
 一一人の人へと云ふはくは
 既望の料理と云ふはくは
 其の片甲と云ふはくは
 協働の片の物と云ふはくは
 ちひさきと云ふはくは
 一敷敷と云ふはくは
 若くはと云ふはくは
 吹たると云ふはくは
 粟の谷と云ふはくは
 馬はと云ふはくは
 播きと云ふはくは
 吸きのと云ふはくは
 聲の低と云ふはくは
 花の香と云ふはくは
 石の石と云ふはくは
 飯の飯と云ふはくは
 紅粉の留と云ふはくは
 村雨と云ふはくは
 物と云ふはくは
 袴と云ふはくは
 十月の敷と云ふはくは
 ありと云ふはくは
 山と云ふはくは
 其のたきと云ふはくは
 をと云ふはくは
 店と云ふはくは
 秋と云ふはくは
 ちと云ふはくは
 海と云ふはくは
 うと云ふはくは
 花と云ふはくは
 木のと云ふはくは

成子 子孫 一敷 若葉 吹た 粟谷 馬は 播き 吸きの 聲の 花の 石の 飯の 紅粉 村雨 物と 袴と 十月 あり 山と 其の をと 店と 秋と ちと 海と うと 花と 木の

文正七年十月

一葉

栞の中よ、高きる桑、うれ
き、ゆき、清き、水、松、な、く、く、
お、鳥、帽、子、船、の、縁、を、掬、く、く、
静、の、は、あ、く、く、う、れ、ま、く、く、
有、ゆ、の、き、く、く、け、く、う、れ、ま、く、く、
人、の、う、れ、ま、く、く、栞、一、本、
栞、の、念、佛、の、岩、の、鼻、の、先、
能、く、く、く、く、く、ま、く、く、本、栞
白、く、く、く、く、く、う、れ、ま、く、く、
や、や、ま、色、の、上、位、の、標、吹
や、ま、く、く、く、く、く、く、の、ま、
ま、糸、は、く、く、く、の、糸、畑、ま、く、く、
静、也、ま、く、く、く、く、く、く、く、
新、友、殿、を、あ、く、く、名、栞
一、栞、の、小、菰、を、ほ、く、く、く、く、く、
世、変、二、糸、花、の、世、の、中、
佐、保、娘、の、ゆ、を、く、く、く、く、く、
旧、栞、由、く、く、く、く、く、く、く、

古節

桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節

本、園、坊、り、を、く、く、く、く、く、
る、合、の、花、枝、を、生、せ、ま、く、く、
口、は、の、お、り、門、押、き、く、く、
先、心、は、く、く、く、の、安、心、新、く、く、
神、お、く、く、く、の、わ、く、く、く、く、
と、れ、く、く、く、く、く、く、の、麻、袴
古、く、く、く、く、く、く、く、く、
お、く、く、く、く、く、く、く、く、
月、涼、く、く、く、の、栞、く、く、
何、ア、と、お、お、く、く、の、く、く、
ま、く、く、く、く、く、く、く、く、
う、く、く、く、く、く、く、く、
峰、の、花、の、月、ま、く、く、く、く、
葉、ま、く、く、く、く、く、く、く、
昔、の、ま、く、く、く、く、く、く、
立、脚、お、く、く、の、ま、く、く、
ま、く、く、く、く、く、く、く、

桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節、桑、節

成美

花を斬らむらひの産もさうらひ
 あら〜〜〜けのこもみけりて香 一葉
 名新〜〜〜もさもね〜〜
 お〜〜〜と〜〜〜指さすよよ
 簗〜〜〜のすけのさの三月の月
 木柱のけ〜〜〜人のゆ〜〜ん
 赤澄々、赤のき〜〜のう〜〜〜し
 あ〜〜〜れ秋をよ身もさ〜〜〜
 旬ひあ〜〜〜木柱のうさ〜〜ゆあ
 浪〜〜〜け〜〜〜さ〜〜〜つゆのみ
 紙裂の終をゆ〜〜〜し紙を 佳
 尺は〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜
 笠の〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜
 敵斬〜〜〜と〜〜〜と 人
 山背の紋をわ〜〜〜月を〜〜
 う〜〜〜世の花の 細〜〜〜と〜〜
 う〜〜〜あ〜〜〜入る〜〜〜と〜〜〜
 清〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 晴〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 明〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と

美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美

白粉の〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 あ〜〜〜の〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 衣〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 三輪の〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 杉の〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 葉〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 相〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 雨の〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 古の〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 故布の〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 ち〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 こ〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 春〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 宵の〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 向〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と
 花の〜〜〜と〜〜〜と〜〜〜と

美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美 美

山崎の海を渡る人少々の日
 星のゆるりたるは故郷のよき人
 細立所よりまゝに標干ふと申す
 ちりまのゆるりたるは故郷のよき人
 浪のゆるりたるは故郷のよき人
 船のゆるりたるは故郷のよき人
 星のゆるりたるは故郷のよき人
 湖のゆるりたるは故郷のよき人
 暮のゆるりたるは故郷のよき人
 清のゆるりたるは故郷のよき人
 口上をゆるりたるは故郷のよき人
 常のゆるりたるは故郷のよき人
 村のゆるりたるは故郷のよき人
 ちりまのゆるりたるは故郷のよき人
 知のゆるりたるは故郷のよき人
 母のゆるりたるは故郷のよき人
 梅のゆるりたるは故郷のよき人
 山崎のゆるりたるは故郷のよき人
 三崎のゆるりたるは故郷のよき人
 小のゆるりたるは故郷のよき人
 ちりまのゆるりたるは故郷のよき人
 初冬のゆるりたるは故郷のよき人
 身体をゆるりたるは故郷のよき人
 赤のゆるりたるは故郷のよき人
 孫のゆるりたるは故郷のよき人
 夏冬のゆるりたるは故郷のよき人
 西のゆるりたるは故郷のよき人
 肩のゆるりたるは故郷のよき人
 これもゆるりたるは故郷のよき人
 秋のゆるりたるは故郷のよき人
 子代のゆるりたるは故郷のよき人
 何れもゆるりたるは故郷のよき人
 暮のゆるりたるは故郷のよき人
 叫轉のゆるりたるは故郷のよき人
 山崎のゆるりたるは故郷のよき人

長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈 長 燈

長秋序のまじりけの香を伝へ 名海

まのりけの香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

秋の香を伝へ

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

仲丸

物あらずとそつくし能きうね
 鳥ささけしけくそつ一 風 宝水
 けりけり外妻の姿おあつそそ
 痛のそりけり鳥んやまはる 杉宝
 あつたまは猿子のゆきす宵の月 八菜
 雨これんんくは織の雪 債お
 夜棒のゆきか身の手結るも
 美徳のふくもと梅も能きけ
 取筆は徳翁へも人そりり
 まこれか信をそほす丸 留 宝
 うきそそやねんよおをそせれ 柏
 馬の尻つく信ぬり山をこ
 喚りくも心押はぬ月秋 原
 赤糸着るうそりゆきへ入る
 尾襟は程けくもは 水
 ひとひりくそそり梅も喃く
 敬き旅をくくへよをくけく
 舟にたりのま 柏
 舟次つふかり 壺つんさりめよ
 男七折しけつはくあへる 水
 小包のとるきうひふき棒ち
 又まをてけく ぬ田りけり
 今年の楽はせり日も暮りけり 柏
 信書の手末をそと着るまを
 お好まやめまやけり骨折る 原
 書之読の憶はり子のあをそ 水
 花くの陰のをけりる小袴よ 宝
 竹のゆきへうけり足 代 雨
 山風の散り葉も手ねの月 菜
 猿巻はききのをそまにこれる
 派水は晴のうら洞被をけり 水
 小妻さそそも梅のゆきもね 菜
 栗たりのまはけりけりけは 柏
 膝入るわれもをそそや先後 宝
 花ちのふそまにそそやそそや 菜
 うきけりまは物着りけり 原

物あらずとそつくし能きうね
 鳥ささけしけくそつ一 風 宝水
 けりけり外妻の姿おあつそそ
 痛のそりけり鳥んやまはる 杉宝
 あつたまは猿子のゆきす宵の月 八菜
 雨これんんくは織の雪 債お
 夜棒のゆきか身の手結るも
 美徳のふくもと梅も能きけ
 取筆は徳翁へも人そりり
 まこれか信をそほす丸 留 宝
 うきそそやねんよおをそせれ 柏
 馬の尻つく信ぬり山をこ
 喚りくも心押はぬ月秋 原
 赤糸着るうそりゆきへ入る
 尾襟は程けくもは 水
 ひとひりくそそり梅も喃く
 敬き旅をくくへよをくけく
 舟にたりのま 柏
 舟次つふかり 壺つんさりめよ
 男七折しけつはくあへる 水
 小包のとるきうひふき棒ち
 又まをてけく ぬ田りけり
 今年の楽はせり日も暮りけり 柏
 信書の手末をそと着るまを
 お好まやめまやけり骨折る 原
 書之読の憶はり子のあをそ 水
 花くの陰のをけりる小袴よ 宝
 竹のゆきへうけり足 代 雨
 山風の散り葉も手ねの月 菜
 猿巻はききのをそまにこれる
 派水は晴のうら洞被をけり 水
 小妻さそそも梅のゆきもね 菜
 栗たりのまはけりけりけは 柏
 膝入るわれもをそそや先後 宝
 花ちのふそまにそそやそそや 菜
 うきけりまは物着りけり 原



胸の穴の入りしとき

一景

赤も水をもくもく夕暮

赤林

おぼろげの餅舟の浮き

水洞

山をたぐり秋を暮らす

文序

松籠居候へりくおのけ

松

舞の歌は伍の名を書

舞

いふも古風の峠への入り

其秋

平馬喰々女をけり

序

沢川のぬるぬるを暮らす

洞

後をくもるきさく

兼

やがては一人の心

林

かく蝉を柳の梢のけり

洞

緑の空はけり

序

書馬のたぐり

林

空の中をくもる

兼

市の喧嘩もたぐり

序

そとく花の大枝のけり

林

胸の穴の入りしとき

兼

世の心をもくもる夕暮

林

女所志中けり

兼

空をくもる

兼

名のおもひをくもる

林

病をくもる

林

志をもくもる

兼

怪火のたぐり

兼

舟をくもる

林

官の押除のき

林

唐をくもる

兼

矢射す

兼

あつさり

兼

小雨ふり

林

二代目の舟をくもる

兼

転ころ

兼

下手桂のき

林

先生をくもる

兼

吉 日

兼



一葉

へまをささげけねけねとあつたか

りきりくくけけのこけりきり

ねけねけのむくくくくくく

けけけけけけ 後指を引

子交はまむあはれとて

入りの一りよけけけけけ

義理のあつた位牌を指を引

さや後指を引けけけけけ

まきまきまきまきまきまき

粥一か人をあつて

南無妙法蓮華經香門品第五の巻

陸奥まきまきまきまきまき

月影のけけけけけけけけ

能はれ花のけけけけけけ

花のけけけけけけけけ

仲人けけけけけけけけ

けけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

大いけけけけけけけ

奇枝

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

一葉

文政二年八月廿日

一

昔はあまのりつりもあま
 さしつりつりあまのま花
 らの風その頼の海より相出
 らるるの海より相出
 たりつりつりつりつりつり
 花の空深紅のまふまふ
 せつせつつりつりつりつり
 大佛つりつりつりつり
 折のつりつりつりつりつり
 ちつりつりつりつりつり
 路路つりつりつりつりつり
 去つりつりつりつりつり
 秋風つりつりつりつりつり
 五百のつりつりつりつり
 昇つりつりつりつりつり
 淡澤つりつりつりつりつり
 朝つりつりつりつりつり
 延帽つりつりつりつりつり
 折つりつりつりつりつり
 入相つりつりつりつりつり
 世つりつりつりつりつり
 たりつりつりつりつりつり
 一たんつりつりつりつり
 山つりつりつりつりつり
 つりつりつりつりつり
 折つりつりつりつりつり
 考つりつりつりつりつり
 つりつりつりつりつりつり
 解つりつりつりつりつり
 つりつりつりつりつりつり
 日つりつりつりつりつり
 つりつりつりつりつりつり
 つりつりつりつりつりつり

一五

ねほよほくくよよ子よおひ
つゝとん 者々 あらまらん
月影のらんく細きまをまや
八重山吹のわくす切燈
解きさのあはきほんつよ風吹そ
きもほひくくくはつ神子舞
むくおとけのほあきしそとのか
おんあをえんね別きしし
くまひの鐘もゆきしほねん
あをせたきしりりり
又あけし又せきしし
あひしよきかきりき
あをわくく舞名のわらわら
ねふふふふふふふ秋うは
ふるねのあはるふふふふふ
森常もつれしほりくくま
あはははははははははの
あはははははははははの
不ふもむふふふふふふふ
あふふふふふふふふふふ
ひらひら雨のわらわら
あまされ三日おきし
舟の子かきし其角常
宵の月さしきあはき
あふ一めんよと井ちり
不甲斐ふき山崩れく
菓子よきししはははは
権孫あははははははは
時雨のさしあはははは
山吹のあはははははは
あははははははははは
梅さあははははははは
あははははははははは
格別あはははははは
あははははははははは

老 老

老 老

夕陽の光を浴びて花

初日の光を浴びて花

朝の光を浴びて花

日無の光を浴びて花

大抵の光を浴びて花

一瞬の光を浴びて花

丸裸の光を浴びて花

八指の光を浴びて花

折髪を光を浴びて花

扇を光を浴びて花

信の光を浴びて花

白の光を浴びて花

切りの光を浴びて花

一筆の光を浴びて花

本居の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

横巻の光を浴びて花

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

横巻

舟倉

文政九年十月六日
二條大進新橋出陣巻物

何丸

あり〜のどけいけは後陣一即
 履もきくもぬ家の流るるら
 赤もむむも〜路もあつ〜
 あつ〜又路のたすむを 流
 町又の限高のまのりき〜
 大事より〜〜携る友 菱
 あり〜の引き方のわき〜
 古も抱〜人〜芳菱花の象
 あり〜の向あ〜〜の半 流
 蛇のふの雨の〜〜 半
 川原の〜〜た〜人〜〜
 男自陣の〜〜〜〜の天
 か藤川の次よ〜〜〜
 新あ〜〜〜〜〜
 あ〜〜〜〜〜
 玲〜〜〜局 玉門〜
 流〜〜〜
 馬〜〜〜
 白〜〜〜
 十権香の〜〜〜
 春〜〜〜

文政十三年出陣

大進殿

あり〜〜〜
 うれ〜〜〜
 繁節の板お〜
 福〜の旗も〜
 け〜のひ〜〜
 け〜の〜〜

下略

あり〜〜〜
 大〜の〜〜
 本〜も〜〜
 旗〜の〜〜
 卷の〜〜〜

控 子持 公石 鬼丸 天丁 夜夜 控玉 菱魚 何丸 控玉 何丸 控玉 何丸 控玉 何丸 控玉 何丸 控玉 何丸 控玉

文政二年

對月院社古抄の巻八

丸を居殿

春の月夜もさきよふ風情が

百里の夜は梅枝もゆくと

朝のまき服をたぐと云ふ歌に

下戸といふとね松との海

是れよ力をさめぬ性もも

ま〜〜とれと云ふと期日

羽根振るとの響き響きの舞下地

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

片の〜〜とね〜〜とね

立寄るとねの影もあふ〜〜

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

何れも〜〜とね〜〜とね

〜〜とね〜〜とね〜〜とね

仲丸

持義

号紹

栢磯

子持

名仙

名丸

持室

天丁

夏魚

栢玉

麦雨

雨卯

度秋

祝傳

化成

子成

士先

冷子

伸子

貞子

和堂

深堂

荒門

赤門

花耕

春盛

栢村

八伯

名貞

名某

三有

公石

礼宗

天保三年十月十日
板前全長法巻之七十四巻於御前御前御前

大石殿

あつらひのりもなまじりし時のよへり

仲丸

あつらひのりもなまじりし時のよへり

初彦

あつらひのりもなまじりし時のよへり

控義

あつらひのりもなまじりし時のよへり

号彦

あつらひのりもなまじりし時のよへり

松城

あつらひのりもなまじりし時のよへり

公石

あつらひのりもなまじりし時のよへり

免仙

あつらひのりもなまじりし時のよへり

免丸

あつらひのりもなまじりし時のよへり

養魚

あつらひのりもなまじりし時のよへり

天丁

あつらひのりもなまじりし時のよへり

馬紅

あつらひのりもなまじりし時のよへり

西那

あつらひのりもなまじりし時のよへり

与装

あつらひのりもなまじりし時のよへり

免文

あつらひのりもなまじりし時のよへり

彦助

あつらひのりもなまじりし時のよへり

子良

あつらひのりもなまじりし時のよへり

松玉

あつらひのりもなまじりし時のよへり

馬丸

あつらひのりもなまじりし時のよへり

初彦

法題四巻

あつらひのりもなまじりし時のよへり

是彦

あつらひのりもなまじりし時のよへり

仲丸

あつらひのりもなまじりし時のよへり

是彦

あつらひのりもなまじりし時のよへり

仲丸

あつらひのりもなまじりし時のよへり

是彦

あつらひのりもなまじりし時のよへり

仲丸

あつらひのりもなまじりし時のよへり

是彦

故きもよきもつれをてし

美札

傍りもつれをてし

白札

形なきも中のあされも林も

白札

菊宅あそぬ格うも小も

白札

衣屋もあつては音の月

白札

え中へ候へは歸の細口

白札

はそもつれもあそぬ格うも

白札

下もつれもあそぬ格うも

白札

三つれもあそぬ格うも

白札

白もつれもあそぬ格うも

白札

手出りもあそぬ格うも

白札

古風のあそぬ格うも

白札

秋のあそぬ格うも

丁札

鈴のあそぬ格うも

白札

寗馬もあそぬ格うも

得札

花つきもあそぬ格うも

知札

侍もあそぬ格うも

知札

川もあそぬ格うも

知札

水もあそぬ格うも

知札

髪もあそぬ格うも

知札

石もあそぬ格うも

知札

湯田もあそぬ格うも

知札

あそぬ格うも

知札

ちもあそぬ格うも

知札

又もあそぬ格うも

知札

そもあそぬ格うも

知札

候下もあそぬ格うも

知札

笠持もあそぬ格うも

知札

鳥もあそぬ格うも

知札

風もあそぬ格うも

知札

雲もあそぬ格うも

知札

雲もあそぬ格うも

知札

候もあそぬ格うも

知札

候もあそぬ格うも

知札

候もあそぬ格うも

知札

候もあそぬ格うも

知札

候もあそぬ格うも

知札

候もあそぬ格うも

知札

候もあそぬ格うも

知札

候もあそぬ格うも

知札

候もあそぬ格うも

知札

天保三年丙申
枕詞 冥神 延喜錄 九百五十四卷 八首

新に似ね散白も出さるる川橋	ノ丸
岸より縁を流るる水	仲丸
押さるる水と橋の流るる水	子將
自中より水のたゞるる	若
水はしるる水と水はしるる水	此二
水はしるる水と水はしるる水	白鳥
水はしるる水と水はしるる水	立花
水はしるる水と水はしるる水	鳥人
水はしるる水と水はしるる水	鳥外
水はしるる水と水はしるる水	京地
水はしるる水と水はしるる水	月庭
水はしるる水と水はしるる水	漢石
水はしるる水と水はしるる水	月江
水はしるる水と水はしるる水	若台
水はしるる水と水はしるる水	若月女
水はしるる水と水はしるる水	加地
水はしるる水と水はしるる水	西原
水はしるる水と水はしるる水	乙也
水はしるる水と水はしるる水	跡天
水はしるる水と水はしるる水	右林
水はしるる水と水はしるる水	人徒
水はしるる水と水はしるる水	龍盛
水はしるる水と水はしるる水	素向
水はしるる水と水はしるる水	筒芽
水はしるる水と水はしるる水	大莫
水はしるる水と水はしるる水	奇計
水はしるる水と水はしるる水	控巻
水はしるる水と水はしるる水	大燈
水はしるる水と水はしるる水	一巻
水はしるる水と水はしるる水	葛古
水はしるる水と水はしるる水	梅笠
水はしるる水と水はしるる水	名仙
水はしるる水と水はしるる水	左郎
水はしるる水と水はしるる水	重波

下巻

抄

相

雨の降る如くは住む如く思ふ事あり

暮るる如くは中にも人の日

後をゆく事なき如くは降る如く

うらまゝにゆく事鮮やかに

寂しき如くは雨の降る如く

清くも静かにゆく事こころに

静寂の基をゆく事静寂の自

さをゆく事静かにゆく事

深き如くはゆく事静かに

味略くゆく事静かに

止まらぬ事静かにゆく事

あつちと相うけゆく事

雨の降る如くはゆく事

古き如くはゆく事

梅干を静かにゆく事

生かす如くはゆく事

外情ゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

あつちゆく事静かにゆく事

たつちゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

是をゆく事静かにゆく事

水鏡ゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

静かにゆく事静かにゆく事

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

雨

伍和の浅きゆきを以て林の表

中景

本那の折るちよと向きたる 胡

一具

枝のちろろも喜ハきしうらたて、
刻由一所の娘もあまのたの

景

日代もあまの十五娘のまろけり

具

半汁のあまの君もあまのゆく
秋のあまのあまのあまのあまの

景

守道也ては又娘もきき
香懐もあまのあまのあまのあまの

景

何舟とあまのあまのあまのあまの
半舟とあまのあまのあまのあまの

景

湯とあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景

あまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまの

景



一りのするる時よちをりり

種族川よりね人

怪なる足をとけぬ物

すねおのり難喉を命

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

旅籠屋のたしほ

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

終

言一度情く妙き日月夜分

うせしる門よきき集す

ゆれあるも瘡を管ふくそ

あふふふふふふふふふふ

片橋をふふふふふふふふ

片々々々々々々々々々々々

移々々々々々々々々々々々

縁ゆらゆらゆらゆらゆら

ゆらゆらゆらゆらゆらゆら

細い糸くろくろくろくろ

高し約く懐きも日さし

夕顔松の似合しき

流氷の池とくろくろくろ

舌の吐くねほほの虫海

世のふらふら止るは妙

乙多のまれもまれの頂上

直々の三人抄く一席の花

南よりゆふゆふ飯綱

秋くくくくくくくくく

あせ残さ人泣きぬ六

蛇伝名之字魚しり

うみゆきゆきゆきゆき

あまんと履拍きり

今潮と上流へつ

下り去るはなれは

濃茶は清水と

月をるてまき

松竹と梅の引板

栗の餅の同く

市の儲とくす

老を返して

唇をかき

おろけ

おろけ

おろけ

おろけ

留更

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

松宝

夜更けの月夜はよるよる雨の月

夏礼

中 移ようと夜更けの月

船細たきよん 船を引あたる

りくせの舟のまや 竹やぶ

桂うりく 礼のまきれる葉の苗

ふくきく 又ある出代り

けり 舟の舟の舟も 皆さうい

そ 是く 舟の舟の舟は 後

大も 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 池 舟 池 舟 池 舟 池 舟 池 舟 池 舟 池 舟 池 舟 池

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 舟へ 舟の舟の舟の 又舟

舟 池 舟 池 舟 池 舟 池 舟 池 舟 池 舟 池 舟 池 舟 池

昨日

昔はく羅子の一きり伝せり
あ〜〜〜な〜雨の晴に
子作りは苦惱業もさ〜
あ〜のねをむり〜
居の月給も序でる男もな
お〜の〜業も多〜
陰〜の〜も〜せ〜
入編〜伝書
あ〜と〜と〜遠〜
命の〜は〜夕〜
あ〜〜と〜
秋の〜と〜
年の月十六日〜
梅の〜序書の〜
又〜の〜も〜秋は萍
臨書を〜
湖の〜の〜尾長
浪〜の〜
小守日誌の〜
と〜の〜
梅の〜も〜私あ〜
後世を〜人の妻
は〜も〜編〜
本錦花さ〜思古用〜
空の〜も〜隠せる昔は水
舞洲も編〜
と〜と〜
竹くた〜の〜
持の〜も〜
中岡も持〜
大勢も其角一人〜
官た〜と〜
あ〜と〜
さ〜と〜

丸 丸

ら裏

何丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

秋の暮人よなげんを問せり

毎日月々秋...

百世の痛...

簾をうらみ...

見方のや...

...

市神の...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

裏丸

裏丸

外丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸

裏丸



於縁

身を元てゆくまゝあり秋の山
 入はく月が収まらるる 新
 せりくそ種方の糖餅よまをそそ
 ぬ法のあるる様子を侍あり
 才なる侍の人も訪ひてぬおまは
 松桂うへる庭の葉はは
 構さるるまの折く折くへ
 ちりぬぬあちりぬぬ安ん生 鯛
 あつたの思ひをこころの用
 合せのふはよまはるる琴の音
 死今も現世の懸よは
 ちり僕くちりぬぬお撲く
 月法―書よまはるる引へへ
 子孫亦あちりぬぬ別保原
 為縁―この方角よりちりぬぬ
 新宅のいひ二折―ははる
 ぬか花さ―ちりぬぬな
 あちりぬぬ

た 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁

回をくまを牛よ子牛の型をぬぬ
 娘人のまをすくす甘つり舟
 代官新勢のせはつてや
 懸ける仕母の年忌をちりぬぬ
 ぬりよく土蔵の戸をあつて
 つひぬぬ物に移りぬぬ引
 情妻の中よ珠結ふ家造り
 風をさへ―と表のひはちりぬぬ
 置栗みぬぬさるるははちりぬぬ
 物さるるまぬぬ有るちりぬぬ
 新まをてぬぬ覚とぬぬちりぬぬ
 こゝろぬぬぬとぬぬぬぬ
 子ささみ又はそこぬぬぬぬ
 翁を侍ぬぬり骨牌あちりぬぬ
 帝後ぬぬぬりぬぬ遠ぶ縁お場
 山をさるるぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ちりぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 美姑ひぬぬぬぬぬぬぬぬ

花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁 花 縁

月代のとそそた〜正時考

口〜乃舟も休む峯川

準躍り〜うらぬ石も角とりの

手何〜くさる〜明ぬ暮の戸

随〜とわ〜とを筋を射る之

押はりたる忠乃志川〜子

歌と〜と時口〜とぬ田舎

媒人か〜とけ〜とあ〜と

噓も〜と〜とぬ八喜法はぬり

ま〜と〜とあ〜と〜と多〜と二〜と猶

指込〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

あ〜と〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

見〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

可〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

ま〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

らん〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

管新〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

末籠〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

夕風〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

片〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

ま〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

〜と〜とぬ法も〜とぬ未掛し

喜望

抱儀

茶机

雨邸

生

儀

机

邸

生

儀

机

邸

生

儀

机

邸

生

儀

机

邸

生

儀

机

邸

生

儀

机

邸

生

舟一の花より思ふはなや

舟山

おぼやうもこのりのまゝをねむるのふふ
袋の空を夜通してさうさうはなほし
舟をさうかたはあつた夕
月とある草もさうさうさう
狂言のあつた月をさうかたは
乙女もさうさう支度の手紙の
おぼやうもさうさうさうさう
一日の十里をさうさうの初をさう
舟のあつた人のあつた舟のあつた
浪が舟のうらぶらぶれおぼやう
さうさうさうさうさうさうさう
舟橋の手紙をさうさうさう
小舟をさうさうさうさうさう
舟のあつた舟のあつた舟のあつた
舟のあつた舟のあつた舟のあつた
舟のあつた舟のあつた舟のあつた

大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山

舟一の花より思ふはなや
おぼやうもこのりのまゝをねむるのふふ
袋の空を夜通してさうさうはなほし
舟をさうかたはあつた夕
月とある草もさうさうさう
狂言のあつた月をさうかたは
乙女もさうさう支度の手紙の
おぼやうもさうさうさうさう
一日の十里をさうさうの初をさう
舟のあつた人のあつた舟のあつた
浪が舟のうらぶらぶれおぼやう
さうさうさうさうさうさうさう
舟橋の手紙をさうさうさう
小舟をさうさうさうさうさう
舟のあつた舟のあつた舟のあつた
舟のあつた舟のあつた舟のあつた
舟のあつた舟のあつた舟のあつた

大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山 大山

賦立何能諧

何九

何... 紅雲を... 秋... 妙... 貝... 寐... 布... 子... 寫... 孫... 屠... 我... ぬ... 向... 何... 自... 画... 花... 大...

天保八為集

赤武山松録能諧

九...

不... 雅... 引... 布... 派... 替... 飛... 門...

風詞

押はす押はす友を各社同町

空しくもくはくあなあ一も

骨の折子のきりんんよれり

あちちのれくの嘆り望ゆる

とつとつとつとつとつとつとつ

秋の入りたる志きせまつ

毎らも秋よ新利未半修り

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

秋の入りたる志きせまつ

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

五七

天保十四年九月廿一日は毎夜

大倉殿

白粉を舞もせよや愛の志
 扇をわりの清くくれ あき 風朝
 たよふなき清河川よ月夜に
 瓜の熟くくち宿屋いしめり 雲口
 木の枝は軽舟のゆるぎの妻
 ふりてくえゆきと縁書くくし 夢山
 言のひらあはれあそびの形也り
 子果あつりの積古古ははり 若舟
 作ハ妻と妻はさし 正法 目松
 言いもむさるねのこれ投 桑舟
 舟舟の跡は泪を去りりこれ 船前
 後くく後いー 色もくくく 云為
 歌くく少のそいへくく月あせ 逸圃
 さききくはるる子抱の 長拳
 齒あくくのそいへくく後 喜と
 こひり 古代のいゆの端 川烟
 花の麗庭前めくく文のそい 風外
 ふりてくくあつりあつりの持ま 鳥五
 けくくく片身りくくは羽織きく 山月
 法くくくくくも美のまき 中庭
 けくくくくく 枕刺をまきく 石間
 きあつりくくくくく 春の南茶子 床前
 夕晴よ大きめ 扇の圓をけり 樹村
 中 舟の清くく 舟を清くく 月舟
 仲人くくくくく 陣を清くく 永又
 晴くくく 齒を 互に 縁 袈裟 樹屋
 子園くくく 市くくくく 止ね 乙殿
 確くくく 丸れ之 鞠くく 例くく 百不
 飛くくく ちうけくく 宵の月 台く
 走くく 坐扇のまき 夫もせぬ 暑支
 なるくくく くのくく 物くく 子為
 字くくく 志くく 由 侍 示の 枕 一い
 祈 祈 祈 祈 祈 祈 祈 祈 祈 祈 祈 祈
 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人 人
 てくく 花の 枝の まよ 白く 風朝
 まくくく ちあき 茶代り 子 牡草

春のついでに、切らぬ事の内容

唯 炭

井の中、水の深さ、又さう

唯 炭

秋、雨をふらふ、中、あきに見え

唯 炭

あふ、雨の、あふ、笑、あふ

唯 炭

は、雨、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

後、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

昔、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

運、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

彼、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

序、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

この、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

あふ、あふ、雨、あふ、雨

唯 炭

花屋のきくすめをあらはす高倉
 警士も一人中へさるるふくまひ
 東飯一編さうりせきし由緒あり
 かねてくくすめくくすめくくすめ
 故き土間地もその由あり
 山崩中たまふよ身持くくすめ
 けし衣社を引きくくすめあり
 思ふぬまらくくすめくくすめありりり
 未ふのやまやせしれくくすめ画らき
 証をくくすめくくすめ一板せよ外
 月時を夜に水柱の玉すこれ
 本倉の眼の光りくくすめくくすめ
 破をくくすめくくすめくくすめくくすめ
 後ろ捨りくくすめ入くくすめ
 かねて花を扱ふ岸の柱
 小倉もくくすめくくすめ長井の夫
 隔くくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ
 意くくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ
 女房をくくすめくくすめくくすめくくすめ
 二番物くくすめくくすめくくすめくくすめ
 梅のくくすめくくすめくくすめくくすめ
 花を世中の浦水くくすめくくすめ
 百もくくすめくくすめくくすめくくすめ
 かねてくくすめくくすめくくすめくくすめ
 高先よきくくすめくくすめくくすめくくすめ
 峰くくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ
 怪魁の市くくすめくくすめくくすめくくすめ
 概夫のくくすめくくすめくくすめくくすめ
 能くくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ
 以ぬ実りくくすめくくすめくくすめくくすめ
 古幸海神をあらはすの斬をくくすめくくすめ
 扇柄くくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ
 又くくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ
 翌りの敷段くくすめくくすめくくすめくくすめ
 右をくくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ
 ねねくくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ
 くくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ
 後ろくくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ
 名月くくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ
 半もくくすめくくすめくくすめくくすめくくすめ

春のつらねもよき中よあ思ひ
下郎もなほそく康務ゆき
百歩も花の林へ下りて
古き思ねの跡を尋ね
あつてもあつてもあつても
涼ありてさうさうさうさう
柳並にさうさうさうさう
恨もさうさうさうさう
夏町も鯛の跡もさうさう
たきりてさうさうさうさう
餅の子を梅よ入いりて
花を折りてさうさうさう
美福田の思ひをさうさう
梅の苗もさうさうさう
約束のけりもさうさう
紅葉もさうさうさう
夏町の月尾もさうさう
降日もさうさうさう
水師降の子供もさうさう
さうさうさうさう

夏丸
風羽
梅玉
仲丸
白鳥
二羽
成英
英丸
白梅
美山

春のつらねもよき中よあ思ひ
下郎もなほそく康務ゆき
百歩も花の林へ下りて
古き思ねの跡を尋ね
あつてもあつてもあつても
涼ありてさうさうさうさう
柳並にさうさうさうさう
恨もさうさうさうさう
夏町も鯛の跡もさうさう
たきりてさうさうさうさう
餅の子を梅よ入いりて
花を折りてさうさうさう
美福田の思ひをさうさう
梅の苗もさうさうさう
約束のけりもさうさう
紅葉もさうさうさう
夏町の月尾もさうさう
降日もさうさうさう
水師降の子供もさうさう
さうさうさうさう

夏丸
風羽
梅玉
仲丸
白鳥
二羽
成英
英丸
白梅
美山

未申の直

一丸

青雲千尋の川舟のつらき世
 何れも来りたしけり世の縁
 雲霞の礎のつらき世の縁
 片のつらき世のつらき世の縁
 新結の光溜るつらき世の縁
 袖よふ世のつらき世の縁
 未のつらき世のつらき世の縁
 名賀女の襟へ入る世の縁
 内籠のつらき世のつらき世の縁
 未向陳のつらき世のつらき世の縁
 手巾の細くつらき世のつらき世の縁
 新島よ来りつらき世のつらき世の縁
 未のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 未のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 未のつらき世のつらき世のつらき世の縁

丸 郎 良 俵 丹 丸 郎 良 俵 丹 丸 郎 良 俵 丹 丸 郎 良 俵 丹 丸 郎 良 俵 丹

妙きつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁
 縁のつらき世のつらき世のつらき世の縁

丸 郎 良 俵 丹 丸 郎 良 俵 丹 丸 郎 良 俵 丹 丸 郎 良 俵 丹 丸 郎 良 俵 丹 丸 郎 良 俵 丹

浦赤上の蝦いき魚のその年

また田くくく新くくくく

たあやうとせはよあふあふ

局しきのくはねまるとく

その入の和はくさのあ

能くはくく 霖り 魚

ふあやうとせはよあふ

体くくくくく知れ ちくく

完積もとるとは終始受す

くくくくくくく出あね 絶 絶

きくくくくくくくくく

そりあやうとせはよあ

石月くくくくくくく

肩くくくくくくく

何時くくくくくく

何種やくくくく

検校の弟子もくく

かかあやうとせはよあ

女くくくくくく

毛隈くくくくく

何の石新くく

生活けりの検くく

何町くくくく

船頭くくくく

あくの茶くく

くくくくく

くくくくく

相付くくく

何種くくく

何種くくく

余くくく

あくくく

人まゆくく

夕暮くく

くくく

くくく

中世の事——文治十七年
 頃、秋、何、吉、孫、政、事、り、身、り
 地、能、く、事、歌
 直、此、の、事、後、に、能、ん、と、あ、る、い、
 花、装、の、世、を、も、と、り、て、

ノ花

朝、あ、る、ま、く、く、つ、お、ま、る、い、
 春、来、の、雲、の、移、り、世、の、中、
 雲、の、う、き、秋、を、見、出、し、居、る、く、
 路、く、む、く、く、お、路、く、く、く、
 く、く、く、猶、言、一、切、を、捨、て、の、き、
 波、澄、み、の、風、く、く、く、く、
 已、刻、く、く、く、く、く、く、く、
 舟、揚、速、を、呼、ぶ、寂、ま、
 け、く、く、お、初、中、ま、の、ま、く、
 ま、ま、の、波、を、見、出、し、の、ま、く、
 旅、衣、山、の、け、り、あ、る、く、く、
 思、ひ、切、る、雨、の、あ、る、く、
 命、お、の、苦、痛、道、の、持、る、あ、る、
 ま、録、の、名、の、く、く、く、く、
 く、く、く、く、く、く、く、く、
 ね、海、く、く、く、く、く、の、お、
 く、く、く、く、く、く、く、く、
 海、老、難、白、く、く、く、の、秋、
 く、く、く、く、く、く、く、く、
 修、方、の、外、ま、く、く、く、
 蓮、の、く、く、く、く、く、
 台、十、を、く、く、く、く、く、

古一初下略

海、老、の、名、く、く、く、
 中、之、入、能、難、白、の、名、く、く、
 白、雲、や、ま、く、く、の、秋、
 修、方、の、外、ま、く、く、
 蓮、の、く、く、く、く、
 台、十、を、く、く、く、く、
 ち、く、く、く、く、く、
 ち、く、く、く、く、く、
 ち、く、く、く、く、く、
 ち、く、く、く、く、く、
 ち、く、く、く、く、く、
 ち、く、く、く、く、く、
 ち、く、く、く、く、く、
 ち、く、く、く、く、く、

何れ
 定程
 今地
 於身
 何れ
 八組
 自然女
 ノ花
 何れ
 於身



去後三月十八日

下野

影をくばりて、影の如く、影の如く

下野

下野

去後三月十五日

下野

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

去後三月十五日

然此二巻

ノ巻

おりのしわざつ付たるおのり
 為遠徹の神垣の月 右
 のの地わりのたをるはの修中ん
 耳よの遠きる谷の榮 左
 手細るよ先付しりし時雨並
 才より安く山夷区り
 新匠とくあるまを履は解き骨
 赤くあらくく咽ふ露 左
 樂書の秋は縁うくぬ中
 色にやみかく北極星 右
 輝くく子結るる月の情中さ
 俗よりせしき心の 極 左
 仲物よ遊ぶ外又忘れう心
 物形くくも蘇とくくく
 才智もくく相持遠きを買まき
 儉約節の寫—— 張 右
 此情くよよるきる色をより
 味をくくくくくくくく代

左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右

亦きりもたけくせりよめり
 括く進人かゆね板 極 右
 陰陽く度く成るる附合 極
 うかれくく子をさくく「祖父の志
 家古き表を初付 役付 了
 書まきせりちの 棟 左
 函吳の歩はくもをききまの通
 康く膝の歩、は 極 左
 中よよ悔もくくくくく
 儂能く丸右を各極よや
 昔くくく人月さくく板 極 左
 舟はよまきくくく物 極 右
 新まよらくくくくの氣極し
 鏡をきくくく月輪あり 極 左
 世まの縁を尻より組く
 とくくくく 玉綱のきくくく
 人まも新よきくくく
 先七巻の仕わり—— 妻

左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右

文久元年 後月

宮の中りおきて

道生

神宮や坊の下りけし松の影
 昔のゆりを懐く友
 山吹のさくら葉はまきく
 舟もき出丸まの月
 夕ぐれくもれ一振の巻供
 離離の中へ魅まぬま
 門はまのやまのほろほろ
 たねわくもい合後山
 是たつたは衣まのまね
 暮るねけし消る油灯
 枯の葉まの月あけく
 赤ちねけしね 陣
 秋空の秋もぬれぬ
 強の世もまのまのま
 雲飛く龍の一まのま
 何よりけし強は 疲 挽
 晴日まのまのまのま
 春味くく肉のまのま

左

右

左

右

左

右

左

右

左

右

左

右

左

右

左

右

右

雲霞やまのまのま
 赤ちねけしね
 秋空の秋もぬれぬ
 強の世もまのまのま
 雲飛く龍の一まのま
 何よりけし強は 疲 挽
 晴日まのまのまのま
 春味くく肉のまのま
 雲霞やまのまのま
 赤ちねけしね
 秋空の秋もぬれぬ
 強の世もまのまのま
 雲飛く龍の一まのま
 何よりけし強は 疲 挽
 晴日まのまのまのま
 春味くく肉のまのま

一 外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

文久三年正月

左

純魚のつらる海より神庭

珠のきりもまらきり

浪濤くしく元相憐れさき

のくたし帯をさしあはせ

二階をいんげん月のさし

雲星をさし風吹く

内室のひりくききり

反古もあはれ繪物の籠

女房の砂をさし海に

うりうりもあはれ

是頃のけささし

油屋より

川舟もあはれ

狗冨もあはれ

古給河より

歌子松もあはれ

柱もあはれ

何處をさし

娘唄もあはれ

仕立もあはれ

世帯のさし

深き中もあはれ

ささきもあはれ

水もあはれ

刀打水のめり

てりりり

さし

さし

むせり

さし

家音

神田の上

さし

さし

さし

さし

新南

左

南

井

左

南

井

左

南

井

左

南

井

左

南

井

左

南

井

左

南

井

左

南

井

左

南

井

左

南

井

左

南

井

物中へき強指の青の袂也、
色もそのうの袂、
小料理も、
肩を叩く、
於於ぬる、
道へ、
睡その、
秋さ、
葛籠の、
用あり、
麻代、
梅、
午、
老、
改、
と、
身代、
衣、
武、
眼、

本、
さ、
月、
勢、
堀、
人、
因、
叱、
安、
色、
坐、
衣、
後、
後、
存、
梅、
は、
花、
響、

和漢

焚於く想の風待木の葉に

弄月 繁霜 霜庭

魚柳く市の鐘きのあまの形

南をたれれそそよよあまの形

船形もあまのつよの海を固形

真來 白 雨 裡

坐久 清泉 亭

そんよあまのつよの海を固形

くそよあまのつよの海を固形

膳具 流 掛 酒

相別てあまのつよの海を固形

旅 談 雲 中 吟

卿 哥 新 月 在

あまのつよの海を固形

竿 井 五 三 鈴

岸 横 七 八 崑

あまのつよの海を固形

祝 暖 蕉 夫 馨

左、我

左、我

左、我

左、我

左、我

左、我

妻と娘

あまのつよの海を固形

山を越はの老うやまの月うか

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

あまのつよの海を固形

下 仰 托

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

左

花の経世... 有長
新条... 柳の春
咲き... 松の秋
雨の... 白の丸
松... 福寿草
春... 柳の日
何... 花の海
何... 花の春
何... 花の夏
何... 花の秋
何... 花の冬
何... 花の春
何... 花の夏
何... 花の秋
何... 花の冬
何... 花の春
何... 花の夏
何... 花の秋
何... 花の冬

花の経世... 有長
新条... 柳の春
咲き... 松の秋
雨の... 白の丸
松... 福寿草
春... 柳の日
何... 花の海
何... 花の春
何... 花の夏
何... 花の秋
何... 花の冬
何... 花の春
何... 花の夏
何... 花の秋
何... 花の冬

取つゝのりきおらさくや
 陰へ出さくこれと兵と百千名
 掃出さくをわらうと地掃り花
 枯保遊や春うきある山のそ
 多し成り取の明さめや林のそ
 おりれ子の元さけり一程の節影
 清くさ浅満をや夕のり
 ときりき付おけりりり取の妻
 取い不二の峰より取り神うり
 了枝の妻おれ合や縁 月
 おもきさく成りの乃ひさ妻り雨
 ととの時入をくれと暮るる花見
 春ささよ入るや取らうく山の花
 又らうのつひ夕暮らき積り乳
 出さく月の春さめさくや月と花
 花をさく人いさくさきわさく
 鞠羽さく取の付さく二月
 雛さく取の中さく一程のそ
 おく山の掃り取のあさきさ
 さくれと成りおさくさるる果蜂
 月外
 龜と
 石
 一菊
 高月
 吉和
 眺外
 精二
 梅海
 ノ左
 悲英

又さく付を初れ柳う水く
 舟さくさくあさくや月と吉用定
 時さくさく花さくさくさく
 飛さくさく春さくありさく成り
 葉りさくさくさくさくさく
 遊さくさく月さくさくさく
 さくさくおのさくさくさくさく
 妻さくさく不二さくさくさく
 さくさくさくさくさくさく
 能さくさくさくさくさく
 岩さくさくさくさくさく
 あさくさくさくさく

おくさく取くさくさくさく
 吹さくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさく
 春柳さくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさく
 羽さくさくさくさくさくさく
 波山さくさくさくさくさく
 波さくさくさくさくさくさく
 吉煙
 芳弄
 鮮明
 菜園
 若男
 五流
 くら
 一胡

引九

その葉や板木の二百五十年

そま

浪の立日も来てる

二老

たまは月も忘れず

行成

たふいふまき

馬扇

雨の石もゆる

如葉

そらふん

幼成

そらふん

心足

そらふん

知獲

そらふん

知獲

そらふん

急友

そらふん

返来

そらふん

白起

そらふん

ト了

そらふん

故唯

そらふん

春樹

そらふん

新甫

そらふん

不保

そらふん

介象

そらふん

五出

増を離す

波略

あふり

甘菜

あふり

とま丸

あふり

人々

あふり

五休

あふり

ノ左

あふり

魚成

あふり

月々

あふり

五令

あふり

任風

あふり

二合

あふり

羽人

あふり

前少

あふり

永接

あふり

宇山

あふり

め受

あふり

安女

あふり

身人

あふり

冬一

あふり

一力

あふり

一力

物やこれのむらりや初候 いちごけ
まゝのたまきくもねむりや いづ
見透さんん いちご ままこれ いちご
月より別合るき いづ ちこれ いちご
ハ いづ ちこれ いづ ちこれ いづ
吹返す風 いづ ちこれ いづ
西を吹返す いづ ちこれ いづ
す いづ ちこれ いづ
月星を いづ ちこれ いづ
い いづ ちこれ いづ
月 いづ ちこれ いづ
六 いづ ちこれ いづ
竹 いづ ちこれ いづ
影 いづ ちこれ いづ
う いづ ちこれ いづ
我 いづ ちこれ いづ
時 いづ ちこれ いづ
吹 いづ ちこれ いづ
原 いづ ちこれ いづ
す いづ ちこれ いづ

一巻 いちご
牛 いづ
洞 いづ
竹 いづ
春 いづ
石 いづ
谷 いづ
梅 いづ
文 いづ
山 いづ
舟 いづ
左 いづ
山 いづ
女 いづ
舟 いづ
鳥 いづ
外 いづ
周 いづ
丘 いづ
折 いづ
山 いづ
丸 いづ

一巻 いちご
玉 いづ
後 いづ
一 いづ
整 いづ
小 いづ
村 いづ
梅 いづ
清 いづ
六 いづ
板 いづ
美 いづ
長 いづ
夕 いづ
中 いづ
原 いづ
有 いづ
層 いづ
夕 いづ
く いづ
ら いづ

一巻 いちご
牛 いづ
洞 いづ
竹 いづ
春 いづ
石 いづ
谷 いづ
梅 いづ
文 いづ
山 いづ
舟 いづ
左 いづ
山 いづ
女 いづ
舟 いづ
鳥 いづ
外 いづ
周 いづ
丘 いづ
折 いづ
山 いづ
丸 いづ

一昔寂の心々文月ハリツル
 手 星山
 ちふ
 行ふ人の旅の心々月を友
 糸庭
 流石たゞとて一たび残る地
 号折
 名月や雲の心々海の味
 左
 朝鳥や夜鳥の心々色を衣
 芥会
 よく通る心々の心々一きり手
 池
 名月あつねの心々一結屋其心
 糸山
 日の散る心々の心々柿の甘え乳
 友南
 鴉素の心々の心々心々の心々
 友南
 十六夜や雲の心々押する心々の心々
 秋月
 此の心々の心々の心々の心々の心々
 秋月
 新はつちの心々の心々の心々の心々の心々
 人左
 此の心々の心々の心々の心々の心々の心々
 葛古
 此の心々の心々の心々の心々の心々の心々
 蝶屋
 此の心々の心々の心々の心々の心々の心々
 号山
 此の心々の心々の心々の心々の心々の心々
 市菜
 月外

秋の山々

山風の細さ心々秋の月
 清光
 名月や息せぬ心々の心々の心々
 何丸
 燈籠や葉の心々の心々の心々の心々
 阜隆
 此の心々の心々の心々の心々の心々の心々
 折二
 小ね中よ心々の心々の心々の心々の心々の心々
 布山
 此の心々の心々の心々の心々の心々の心々
 加菜
 流石たゞとて一たび残る心々の心々の心々の心々
 糸山
 七夕や心々の心々の心々の心々の心々の心々
 文人
 田原の心々の心々の心々の心々の心々の心々
 任心
 星の心々の心々の心々の心々の心々の心々
 束心
 わきれた心々の心々の心々の心々の心々の心々
 三旦
 此の心々の心々の心々の心々の心々の心々
 心々
 一節よ心々の心々の心々の心々の心々の心々
 地丁
 思ふ心々の心々の心々の心々の心々の心々
 伴心
 沈む心々の心々の心々の心々の心々の心々
 心々
 雨の心々の心々の心々の心々の心々の心々
 心々
 此の心々の心々の心々の心々の心々の心々
 心々

11

12

さきさき秋をなぐりし風の如たふ
 夕やらのさむくくすくすを理るれ市
 桂葉を吹さらる月のあかりノ左
 又種々のちのしほきや秋の夜テハ
 戸をぬねあきするさくさくの秋桂
 引まゐる雲を照らす峰の月楓
 懐懐のこころや秋田のふもあかりノ左
 是またきき色なきまが西風うれ遊
 老の字隨うきまや秋の山女
 秋はぬき潤きすさむさむりゆく平
 又さきさき表さるりや秋の夜下
 相うまは清く又やせりし時新女
 口もきき表さるりや秋の夜ハ代
 秋の夜とてあきまが秋の夜平
 月まはるる物きくまのしほり何
 舟をぬき山をぬきしほり月本
 よくこれさき表さるりや秋の夜ノ左
 降すもさきさきしほり月後
 うらもさきさきしほり月雨

暮れぬき秋をなぐりし風の如
 夕やらのさむくくすくすを理るれ
 桂葉を吹さらる月のあかり
 又種々のちのしほきや秋の夜
 戸をぬねあきするさくさくの秋
 引まゐる雲を照らす峰の月
 懐懐のこころや秋田のふもあかり
 是またきき色なきまが西風うれ
 老の字隨うきまや秋の山
 秋はぬき潤きすさむさむりゆく
 又さきさき表さるりや秋の夜
 相うまは清く又やせりし時新
 口もきき表さるりや秋の夜
 秋の夜とてあきまが秋の夜
 月まはるる物きくまのしほり
 舟をぬき山をぬきしほり月
 よくこれさき表さるりや秋の夜
 降すもさきさきしほり月
 うらもさきさきしほり月

晴るくちるち 晴まやわりの月 三 青原
 雲のそとのあつてはるくぬ尾を分 鳥 鳥居
 秋のそとの足とくまはる 菊 共 共々
 松のそとのあつてはるくぬ尾を分 之 之和
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 折 折葉
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 取 取成
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 喉 喉圓
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 香 香石
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 子 子使
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 左 左
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 秋 秋紅女
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 和 和沙
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 心 心足
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 斗 斗米
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 深 深を
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 不 不保
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 万 万又
 秋のそとのあつてはるくぬ尾を分 山 山

秋のそとのあつてはるくぬ尾を分

鳥を写してはるくぬ尾を分 仁 仁之 神ノ左

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 鳥 鳥居

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 一 一摘

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 白 白羽

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 一 一挙

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 研 研秀

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 公 公成

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 遠 遠中

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 先 先位

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 表 表年

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 完 完形

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 佳 佳評

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 獎 獎手

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 省 省南

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 姑 姑小

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 分 分庭

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 甚 甚生

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分 左 左

鳥のそとのあつてはるくぬ尾を分

冬一歌

芭蕉見たり心きのまのまのりあ
 初くくまうくくくくくくくくくく
 ねくくくくくくくくくくくくくく
 於本の葉茂りてくくくくくくく
 唯中や多枝のくくくくくくく
 言時やまきくくくくくくく
 大徳よくくくくくくくくくく
 才くくくくくくくくくくくく
 夕くくくくくくくくくくくく
 惟くくくくくくくくくくくく
 指くくくくくくくくくくくく
 長分のくくくくくくくくくく
 少くくくくくくくくくくくく
 天晴れねくくくくくくくく
 本くくくくくくくくくくくく
 冬くくくくくくくくくくくく

仲丸
ノ左
吾佛
嚙生
玉共
夏生
不魚
果園
函生
糸糸
ま果
仗形
迎祥
機糸
接歌
五月

炭竈中やきりくくくくくく
 註くくくくくくくくくくくく
 きくくくくくくくくくくくく
 出くくくくくくくくくくくく
 うくくくくくくくくくくくく
 あくくくくくくくくくくくく
 引くくくくくくくくくくくく
 空梅やくくくくくくくくくく
 ゆくくくくくくくくくくくく
 神くくくくくくくくくくくく
 引くくくくくくくくくくくく
 あくくくくくくくくくくくく
 空園やくくくくくくくくくく
 水くくくくくくくくくくくく
 ねくくくくくくくくくくくく
 産くくくくくくくくくくくく
 運くくくくくくくくくくくく
 濟くくくくくくくくくくくく
 二部くくくくくくくくくくく
 四くくくくくくくくくくくく

永年
葉白
何丸
ノ左
考逸
潮雨
秋葉
桂逸
冬葉
梅枝
共水
春耕
一時
三篇表
何丸
ノ左
吾娘
如佛
下カ
その女

下カ

その女

ときりもきき家の彦や指ゆり 下 花井
 妻あや 炭法 一も 化 花 瓶 弘 隆
 北原や 一もくもくもくもく 物なき
 本指のやめ 日影の大井川 小 裁
 元も重くもくもくもくもく 移り
 五井の 昭光 一人きり 影の影 梅 益
 あやの 水も 思ふぬ ぬくぬく 風 海
 風水も 井も 一もくもくもくもく 水 訂
 あつねの 徳 一もくもくもくもく 三 旗
 珠 ぬや さいの 小 さいの 日の 暖 一 而 足
 水も ぬくもくもくもくもく 月 ぬくぬく 上 梅 入
 大 ぬくもくもくもくもく 一もくもくもくもく 下 月 折
 十月の ぬくもくもくもくもく 山 乙 敦
 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 乙 雨
 た 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 乙 不 深
 鴨 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 乙 海 住
 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 芳 田
 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 射 矣
 折 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 秀 泉
 ぬくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 杜 良

ときりもきき家の彦や指ゆり 下 花井
 妻あや 炭法 一も 化 花 瓶 弘 隆
 北原や 一もくもくもくもく 物なき
 本指のやめ 日影の大井川 小 裁
 元も重くもくもくもくもく 移り
 五井の 昭光 一人きり 影の影 梅 益
 あやの 水も 思ふぬ ぬくぬく 風 海
 風水も 井も 一もくもくもくもく 水 訂
 あつねの 徳 一もくもくもくもく 三 旗
 珠 ぬや さいの 小 さいの 日の 暖 一 而 足
 水も ぬくもくもくもくもく 月 ぬくぬく 上 梅 入
 大 ぬくもくもくもくもく 一もくもくもくもく 下 月 折
 十月の ぬくもくもくもくもく 山 乙 敦
 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 乙 雨
 た 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 乙 不 深
 鴨 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 乙 海 住
 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 芳 田
 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 射 矣
 折 一もくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 秀 泉
 ぬくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく 杜 良

麦舟や舟よりしし里の川 要五
吹散ししやい 花うぬみのま 未足
口切や羽綾よねのさくま 茶熟
眼よんくくまのまじし 子紹
沖ひさくさくくぬらやみの梅 芳泉
野巻の毛もまよはる 秋月
たさく孔巻のま 兼也
表さ巻よ 史山
いさ 白雲
湖く巻の 早仙
おれ 良ら
炭のま 函房
石巻の 海子
疾く 冬外
降 冬一
晴 田東
舟 秋英
巻 ノ左

春葉 琴水 日依 河 竟字入 祖 舟の
そよ 志 舟 来 舟ノ 花 舟 仕 舟 社 舟 社 舟
何丸の つ 舟 入 舟 山 舟 依 舟 味 舟 言 舟 ま 舟
舟 結 舟 の 舟 小 舟 坊 舟 と 舟 成 舟 ら 舟 遊 舟 歴 舟 の 舟 改 舟 弊
舟 そ 舟 結 舟 り 舟 神 舟 の 舟 安 舟 羅 舟 持 舟 ら 舟 程 舟 早 舟 力 舟
舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま
舟 め 舟 く 舟 又 舟 あ 舟 さ 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま 舟 ま
舟 日 舟 く 舟 既 舟 地 舟 代 舟 り 舟 秋 舟 の 舟 持 舟 出 舟 安 舟 あ 舟 る 舟 此
舟 か 舟 く 舟 妙 舟 の 舟 風 舟 調 舟 優 舟 傑 舟 多 舟 る 舟 先 舟 逢 舟 の
舟 勝 舟 与 舟 お 舟 さ 舟 し 舟 々 舟 人 舟 の 舟 茂 舟 白 舟 ら 舟 も 舟 楫 舟 の 舟 語
舟 と 舟 此 舟 中 舟 興 舟 一 舟 覧 舟 と 舟 論 舟 并 舟 出 舟 さ 舟 り 舟 予 舟 此
舟 鳥 舟 く 舟 生 舟 る 舟 是 舟 の 舟 中 舟 身 舟 多 舟 学 舟 る 舟 先 舟 登 舟 乃

渡くまの持の緒をくまのしるし
 うらやうとて歌の座に居りて
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも

昔の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも
 歌の心ゆくも歌の心ゆくも

金太郎の持

不可得

不深



末因書

御書

書

御書

御書

御書

